

4 明学レッドクロス(日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ)

職員総括

明治学院大学が日本赤十字社とボランティア・パートナーシップを締結してから5年目を迎えた。その時結成された明学レッドクロス学生メンバーの活動も、日本赤十字社から依頼されるボランティア活動に留まらず、自分たちでやりたい活動を見出せるようになってきた。

年2回(4月・10月)行われる白金キャンパスでの学内献血呼びかけ活動では、献血者数の減少に苦慮していた。1年生メンバーより、授業のあるなか40分間の献血時間を取ることが難しいこと、都内の献血ルームが魅力的に変貌していることから、献血促進に向け特色ある献血ルームを紹介するリーフレット作成の提案がなされた。

この作成に関し、事前に東京都赤十字献血センターに連絡し許可を得て、印刷前に内容等を確認いただくこととした。そして、夏季休暇中、都内の主要な献血ルームを4グループに分かれ訪問・インタビューをした。それぞれのグループがインタビュー結果を持ち寄り、まとめ方を協議してリーフレットを完成させ配付することができ、達成感を得られた。

また、新しい試みとして防災に興味を持つメンバー3名とともに、10月に港区高松地区で行われた防災炊き出し訓練に参加した。やはり、見聞きするのと実際に体験するのでは、学びの内容に大きな差があり、このような訓練を重ねることが、災害に見舞われた時の迅速な判断・行動に結びつくことを実感した。日本赤十字社主催の防災関係のイベントもあり、そこで学んだことを地域につなげるなど、今後の自主的な活動に期待が持てそうである。

その他、日本赤十字社との連携としての活動を挙げると、スマイルチルドレンプロジェクトに本学より5名の学生が参加した。これは子どもの貧困をテーマとする香港ユースと日赤ユースとのボランティア協働活動の一環であり、日赤ユースは、NPO法人キッズドアと連携し、生活困窮者の子どもたちに学習支援を行っている。また、RCV(赤十字ボランティア情報誌)編集委員となりボランティア活動情報を広める役を担ったり、全国赤十字大会、災害時の連携を考える全国フォーラム、赤十字シンポジウム(NHK Eテレ番組収録)、「NHK 海外たすけあい」キャンペーン等の行事にボランティアとして当日の運営手伝い等で参加したりした。

(職員 北野順子)

●2017年度「明学レッドクロス」の主な活動

日にち	内容(参加人数)
4/18(火)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動(7名、職員1名)
5/25(木)	「平成29年全国赤十字大会」ボランティア(1名)
5/26(金)・5/27(土)	「第2回災害時の連携を考える全国フォーラム」ボランティア(2名)
6/17(土)	日本赤十字社神奈川県支部にて「救命救急基礎講習」受講(1 Day for Others 協働プログラム)(18名)
7/5(水)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.66』完成(2名) 特集:炊き出しを考える http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/170712_004861.html

8/21 (月)、9/15 (金)	都内献血ルームを訪問・取材 (4か所を10名で分担)
9/15 (金)	日本赤十字社本社見学、献血ルーム紹介リーフレットの作成会議 (12名、職員1名)
10/17 (火)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動 (3名、職員1名) ・学生が作成した都内の献血ルームを紹介する「献血ルーム紹介リーフレット～献血に行こう～」を配付
10/22 (日)	港区高松地区の「防災炊き出し訓練」に参加 (3名、職員1名)
10/27 (金)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.67』完成 (2名) 特集：ボランティアの敷居は高くない http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/171102_005015.html
12/13 (水)～12/22 (金)	横浜図書館展示 テーマ：赤十字について ～争いのない世界へ～
2/19 (月)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.68』完成 (1名) 特集1：地域とボランティア、特集2：海外たすけあい2017 http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/180219_005156.html
《その他通年活動 (日本赤十字社のプロジェクトに参加)》	
4月～3月	スマイルチルドレンプロジェクトメンバーとして活動 (5名)
8月～12月	海外たすけあいユースボランティアとして活動 (1名)

◇日本赤十字社との協働「スマイルチルドレンプロジェクト」

目的	子どもの貧困状況を知り、子どもへの学習支援を行っているボランティアとつながる
日時、場所	2017年7月19日 (水) 17:30～21:00 目黒区中目黒 ほか参加日：5月10日 (水)、31日 (水)、6月6日 (火)、27日 (火)、10月4日 (水)
参加人数	毎回約15～20名 (運営スタッフと学習会生徒)

実施概要

日本の子どもの貧困状態について自分たちが把握をし、貧困世帯の子どもが参加している学習会 (NPO 法人キッズドアが運営) に積極的に参加する。学習会は、各々通いやすい場所に参加する。活動は毎週のキッズドア、1か月に1度のプロジェクトメンバーのミーティング。日本の貧困世帯の子どもに積極的にアプローチしていくことで、いずれは自分たち日赤のユースで貧困世帯の子どもたちに向けて学習会を開くことを目標としている。

感想・活動を通して得た学び

中学一年生の女子生徒に数学と理科を教えた。とても出来のよい子で1度間違えた問題を解き直しさせると、解答を見ずに自分の力で解くことができた。解いてわからない問題があれば、自分から質問をして理解しようという意欲がとても見受けられた。1時間学習した後の休憩時間では、生徒から私に大学生活についていろいろと質問してくれた。「大学生って大変?」「先生は何のサークルに入ってるの?」「大学の勉強って楽しい?」などである。それを聞いて、大学生活にとっても憧れを持っているのを感じ、貧困の家庭であっても決して将来の夢を捨てないでほしいと思った。

この活動を始めた時は、日本の貧困世帯が意外にも多くあることを知らなかったし、将来の夢を持っ

ているにもかかわらず、貧困のためにその夢が断たれていることも知らなかった。そのような子どもに一人でも多く手を差し伸べられたらと思った。

今後に向けて

プロジェクトメンバーが、それぞれ学習会の活動を充実させて、プロジェクトとして学習会への参加を定着させる。月1回のミーティングで各学習会の状況を共有し、プロジェクトとして開く学習会に向けて話し合う。また学習会で少しでも子どもたちとの距離を縮めたり、質のよい学びを提供できるように現役の教師を日赤に招き、研修会等を行う。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇献血ルーム紹介リーフレットの作成

目的	献血ルームの利用促進
活動期間	2017年9月15日(金)～10月17日(火)、東京都内の献血ルーム
参加人数	15名

実施概要

学生の献血そして献血ルームの利用促進を図るために献血ルーム見学を行った。その理由は学内に献血車が来た際に呼びかけを行い、その場で献血をするのが難しいと考える学生が多いと感じたためである。どうしても時間がかかってしまうため授業の関係などで参加できない学生が多い。またその場ですぐに献血を行うことに抵抗のある学生も多い。そのためミーティングのなかで1年生から「献血ルームの紹介を行ったらどうか」という提案があった。赤十字社は各地に献血ルームがある。チームに分かれ4か所の献血ルームを見学し、紹介リーフレットを作成した。



感想・活動を通して得た学び

献血ルームの紹介リーフレットをどのように作成したらよいのかを多くのメンバーで考えることができた。明学レッドクロスでは日赤本社からの紹介により個々人で活動に参加する機会が多い。またミーティングも横浜と白金キャンパス間をテレビ中継でつないでやっているため全員で会う機会もなかなかない。そのため今回のリーフレット作成では全員で一つのことに取り組むことができ、よりメンバー同士で協力することができた。献血ルーム見学時もそれぞれの献血ルームの特徴を細やかに取材することができた。赤十字について、より関心を持つことのできたメンバーが多かった。

今後に向けて

個々人の活動になってしまいがちになる環境のため、明学レッドクロスとして一つの活動ができるようになればと考える。個々人の活動をメンバーに紹介・報告し、意見交換やアドバイスなどを行い、活動の幅をより広げられよう努めたい。そして今回の活動のように定例化している献血の呼びかけの際

に感じた課題をメンバー同士で考え向き合い、改善策を考案できたのは大きい。赤十字、そして大学、学生に明学レッドクロスとして貢献できることは何かを、これからもメンバー同士で探し続けられる団体を目指したい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇港区高松地区防災炊き出し訓練

目的	地域の防災訓練を通して防災意識を高めるため
日時、場所	2017年10月22日(日)9:00~16:00、東京都港区立高松中学校
参加人数	3名、職員1名

実施概要

今回の防災炊き出しは港区高松地区の主催のもと、高松中学校のピロティを利用して炊き出し訓練を実施し、地域の皆さんと一緒に非常食のアルファ米(白米)と豚汁を作った。私たち明学レッドクロスからは3名の学生が参加した。通常、明学レッドクロスの活動として行われるものは日本赤十字社との協働プロジェクトなどである。日本赤十字社は国内救護活動など災害時の支援も多く行っている団体であり、防災に対する知識や理解を深めるとい意味でも実際に地域の防災訓練などのボランティアに参加してみるのもよいのではないかという思いから高松地区の炊き出しボランティアへの参加を希望した。この日は台風21号が近づいており、実施が危ぶまれたが、災害はいつ来るかわからないという想定のもと無事実施することができ、中学校内に来ていたスポーツ大会等で体育館を利用している家族連れやお年寄りの方々に豚汁とアルファ米を振る舞った。



感想・活動を通して得た学び

今回の炊き出しで感じたことは人数を想定した炊き出しの読みは難しいということである。当日は200食分を用意していたが、どれくらいの方が当日スポーツ大会等で体育館を利用しているか把握していなかったため、どれくらいの配分で配膳するかを読むことができなかった。また、200食分の豚汁を作る際にも予想以上に調味料や水の量が必要で、火を起こしてからお湯が沸騰するまでも結構時間がかかった。また大量の野菜の水分で味がどうしても薄まってしまい、味噌の量が読めず途中で買い出しに行くなど炊き出しならではの学びが多くあった。

災害対策においては「自分の身は自分で守る自助」と「行政や国が対策する公助」と「地域の共助」とが重要といわれている。そのなかでも「共助」にあたる今回の防災炊き出しは地域の方との交流という意味でも重要であったと感じた。このように日々地域の方が協力して実施されるイベントがあるということは地域コミュニティの強化にもつながり、それが一つの防災対策として成り立つと感じられる。今後の明学レッドクロスの活動としてもこのように防災について考える機会を増やしていけたらよいと思う。

今後に向けて

災害はいつどこで起こるか予想は不可能であるが、少しでも災害に対する意識を持ち、準備をしてお

くことで減災につながると感じる。今回は高松地区の方々の主催で参加者としての一面が強かったため、このような防災炊き出しや防災訓練を学生主体ですることができたら大学生などの若い世代にも防災の重要性が伝わると思った。また今回の防災炊き出しの参加や日赤の防災教育について改めて考えて、メンバー内に共有していきたいと思った。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇日本赤十字社本社見学

目的	赤十字について学ぶ
日時、場所	2017年9月15日(金) 14:00~15:30、日本赤十字社本社
参加人数	12名、職員1名

実施概要

今年度、明学レッドクロスはたくさんの1年生を新たにメンバーとして迎えることができた。そこで、赤十字について興味を持ってくれたメンバーとともに赤十字の原点について学びを深めるために、夏休みを利用して日本赤十字社本社を訪れ、施設内の見学をさせていただいた。



感想・活動を通して得た学び

赤十字の活動や歴史などについて、当時の貴重な資料とともに赤十字奉仕団（ボランティア）の方に説明いただき、赤十字の基盤には人と人が互いに支えあうことの大切さがあり、その基盤が現在まで引き継がれて多種多様な分野へ生かされていることを学んだ。また、救護倉庫の中は緊急時素早く対応できるように、また被災者の不安を少しでも軽減できるような物資の備えと工夫がなされていた。この他にも普段は入ることができないフロアの見学もさせていただき、貴重な体験となった。

今後に向けて

今回の日本赤十字社本社見学では1年生はもちろんのこと、2・3年生もさらに赤十字についての理解を深めることができた。今後も日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップを強みに、赤十字に関連するさまざまな活動へ各メンバーが積極的に参加し、明学レッドクロスとしての活動の幅を学内・学外問わずさらに広げていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇『RCV』（赤十字ボランティア情報誌）編集委員

目的	日本赤十字社ボランティア情報誌の作成
活動期間	2017年6月~2018年3月
参加人数	2名

実施概要

日本赤十字社の情報誌『RCV』作成のため、各号のテーマに沿って活動をしている全国の赤十字奉仕団を調べ、アポイントを取り取材を行った。今年度は、神奈川県・大阪府などで取材を行った。その後、

取材を基に記事を作成した。

感想・活動を通して得た学び

今まで取材をしたり、記事を書いたりという経験がなかった初心者であったが、日本赤十字社の職員の方が手厚くサポートしてくださるので不安もなく楽しく活動できた。『RCV』の編集を通して、日本全国には今まで知らなかったボランティア活動がたくさんあることを学んだ。

今後に向けて

編集作業を通して、ボランティア活動の楽しさ、大切さに改めて気づかされた。今回の活動で無事任期を終えたが、この活動で得た気づきを忘れずにこれからもボランティア活動は続けていきたいと思う。

(学生メンバー 心理学部心理学科)